

～「IT パスポート 最新版！傾向と対策」～

1. IT パスポート試験とは

(1) どのような試験なのか

IT パスポート試験とは、新試験制度のレベル 1 に相当し、
職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を測る試験
です。試験内容は、
4 択の問題 100 問
を、
2 時間 45 分
で解くというものです。

難易度的にもそれほど高くありませんから、学生の方は在学中に取得することをお勧めします。この資格を得ていれば、「コンピュータを扱う、または利用するための最低限の基礎知識をもっている」と、就職活動でもアピールすることができます。

また、「IT パスポート試験」からステップアップして、「基本情報技術者」を取得すれば、さらに就職で有利になるでしょう。

また、ユーザ側(コンピュータを利用する側)や、文系の方で、レベル 2 の基本情報技術者試験(午前試験と午後試験(応用)がある)はハードルが高いと感じる方は、その前のステップとして IT パスポート試験で基礎を学ぶことをお勧めします。それを、次の基本情報技術者試験に生かしてステップアップしてはどうでしょうか。

(2) 合格するためには何点取ればいいのか

IP 試験では、合格するには、

- ・ 総合得点が、満点(1,000 点)の 60%以上
- ・ 各分野別得点が、分野別満点の 30%以上

の両方を満たさなければなりません。つまり、全体で 6 割以上得点するだけでなく、ストラテジ系・マネジメント系・テクノロジー系の各分野ごとに、基準点をクリアしなければならないのです。

2. 21 年秋・本試験問題の傾向

(1) 出題分野

ストラテジ系，マネジメント系，テクノロジー系の各分野ごとの出題数は，

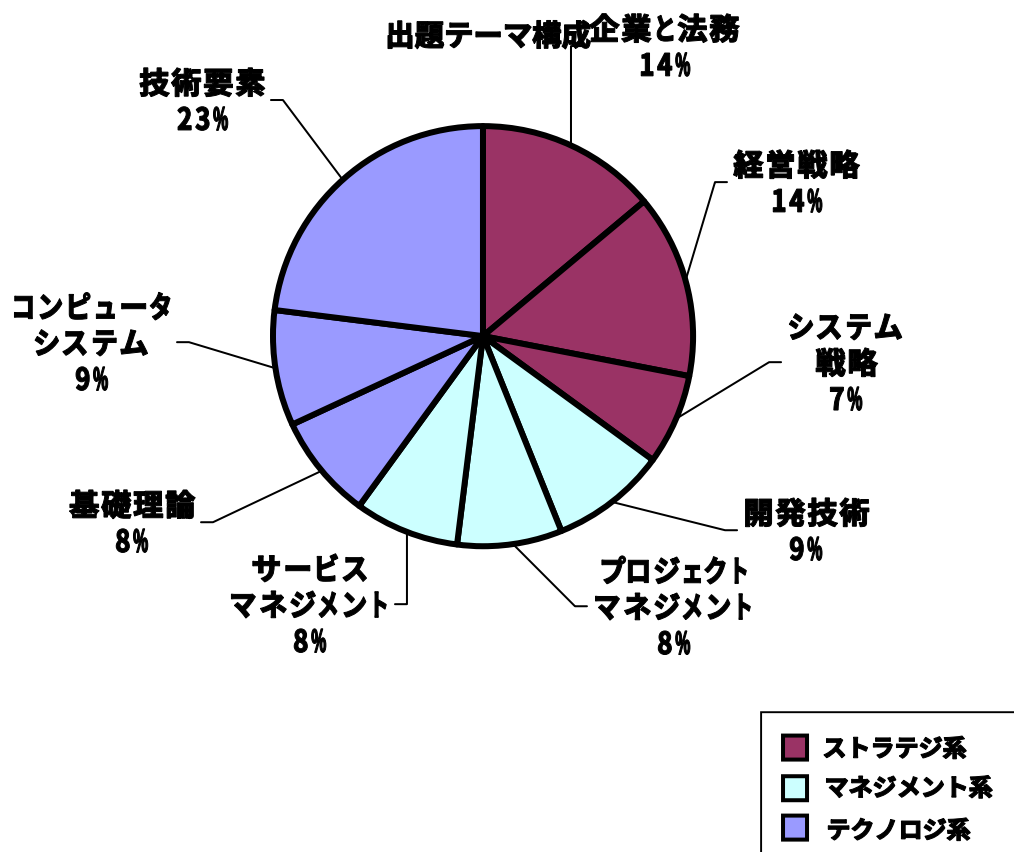
ストラテジ系：小問形式 28 問＋中間形式 7 問（合計 35 問）

マネジメント系：小問形式 25 問（合計 25 問）

テクノロジー系：小問形式 35 問＋中間形式 5 問（合計 40 問）

となっており，マネジメント系からの中間形式の出題が 1 問もありませんでした。各出題分類からの出題率は次のとおりです。

出題分野	出題率	出題数
企業と法務	14.0%	14 問
経営戦略	14.0%	14 問
システム戦略	7.0%	7 問
開発技術	9.0%	9 問
プロジェクトマネジメント	8.0%	8 問
サービスマネジメント	8.0%	8 問
基礎理論	8.0%	8 問
コンピュータシステム	9.0%	9 問
技術要素	23.0%	23 問



●小問形式

IP の出題範囲全体から広く出題されていました。試験センター公表のシラバスに掲載されているテーマを中心に、各分野ともバランス良く出題されています。また、前回と同様に、他区分の午前問題と異なり、細かい分野ごとに問題が並んでいないのが特徴的です。

他区分でも出題実績がなくシラバスにも掲載されていない初出題テーマの中には、社会人または情報処理の常識的知識も一部ありますが、高校生や文系の大学生などにはやはり難しく感じられたと思われます。

また、ストラテジ系、マネジメント系では、共通フレームの「システム化計画」や「ソフトウェア要件」などに含まれる細かい内容に関する問題が数問出題されていました。これらの問題には「知らなければ解けない」という問題が多かったため、共通フレームを重要な学習項目として捉えるべきでしょう。

分野別の特徴を見ていくと、ストラテジ系は、先に挙げた初出題テーマから 6 問が出題されており、他のテーマも CSR や管理会計、労働基準法など見落としがちなテーマが多く出題されていたので、テキスト等の内容をもれなく学習しておく必要があったといえます。

マネジメント系では、共通フレームからの出題が目立ちました。

テクノロジー系では、事例・計算問題において、「8 進数と 16 進数」や「符号化(2 進数)」、「暗号化文字列の復号などの手間のかかる計算」といった IP としては負荷のかかる問題が多かった印象があります。

●中間形式

IP では、問 89～100 において「1 問中に 4 設問」の形式で中間が 3 問出題されます。小問(問 1～88)が主に知識を問う問題であるのに対し、中間では知識はあまり必要とせず、問題文の事例を読んで判断する力を問う問題です。21 年秋の各中間のテーマは以下のようなものでした。

〔中間 A〕販売管理システム(ストラテジ系 3 問、テクノロジー系 1 問)

DFD、流れ図、条件に従った在庫からの引当、請求金額の計算に関する問題が用意されていました。

〔中間 B〕販売データの分析(ストラテジ系 4 問)

表計算及びバブルチャートが扱われました。表計算では、読取りではなく、「入力する計算式を問う」という初級シスアドや基本情報技術者と同様の出題です。

〔中間 C〕関係データベース(テクノロジー系 4 問)

1 問目がバックアップの容量計算、後半の 3 問がデータベースに関する問題になっています。

(2) 難易度の特徴

小問形式の「ストラテジ系」及び「マネジメント系」及び中間の難易度が高く、合格率の高かった前回 21 年春の試験と比較して厳しい試験になったといえます。

テキストによる学習をしっかりと行った上で、少し難しめの問題演習を含んだ十分な演習を積んで試験に臨んだ方ならば、高得点は難しいかも知れませんが、合格基準に達することはできたでしょう。逆に、前回 21 年春の試験程度の難易度を想定していた方には、難しい試験になってしまったと思われます。

●小問形式

過去の初級シスアドや基本情報技術者試験の問題の流用は数問程度であり、ほとんどは前回同様に新規の問題でした。問題形式としては、正誤問題及び計算問題が前回より多く、半分以上が正誤問題となっていました。

まず計算問題についてですが、全体的に手間のかかる計算を強いられる問題が多く、負荷が高かったと思われます。損益分岐点売上高や伝送時間といった定番のものだけでなく、経路の数や期待値の計算などバリエーションに富んだ出題となっており、基礎的な公式や解法パターンだけでなく、応用力や演習経験が必要だったといえます。

21 年春の試験と比較して、「テクノロジー系」は標準的な難易度でしたが、前半の「ストラテジ系」及び「マネジメント系」の難易度が非常に高く、多くの受験者が困惑したことと思われます。シラバスに載っているようなテーマでも、論点が異なる問題、聞き方を変えた問題及び悩ましい選択肢が並んだ問題が多く、単純な用語の暗記だけでは対応できません。その用語やテーマに関するより深い知識・理解がないと、正解を出せなかったでしょう。

合格のためには、難易度の高かった「ストラテジ系」及び「マネジメント系」での正答率が大きく影響すると考えます。これらの分野では、まず基礎的な知識を問うような問題を確実に解答した上で、やや深い問題に対しては、基礎的な知識をベースとして「何が必要なのか」「どのような場面で使用されるのか」などを適切に見極められたかがポイントになったでしょう。

●中間形式

前回の問題と比較して、全体的に難易度は上がったという印象でした。

各中間にそれぞれ、計算問題など難易度の高い問題が 2～3 問含まれており、決して楽な問題とはいえません。類似テーマの演習経験、データ分析力・計算力などが正答率に影響したと思われます。

また、問番号順に解いた場合、中間は試験の最後に解く問題となりますので、中間にどの程度の時間を割り当てることができたかも重要になってきます。小問に時間をかけ過ぎて十分な時間が確保できなかった場合、あせりから思わぬミスを犯してしまうことも考えられます。

3. 試験の対策

- (1) 基礎知識の習得をしっかりと
- (2) 弱点分野を作らない
- (3) インプット／アウトプットのサイクルをバランス良く
インプット → アウトプット → 再インプット…
- (4) 公開模試で腕試し
- (5) 最後は、演習問題を解いて解いて解きまくる！

Memo